

陳情第 7 5 号		受理年月日	令和 7 年 1 2 月 3 日
付託委員会		環境水道防災委員会	
件名	「地球沸騰」による破局を避けるべく、実際に温室効果ガスの削減を実現できる、画段階的な対策を構想し講じることを求める陳情について		
<p>要 旨</p> <p>日本を含む先進国は、化石燃料の活用で近代化を果たし、豊かさ、便利さ、安楽さを得てきたが、人間活動に起因して排出される二酸化炭素やその他温室効果ガスが「地球沸騰」「気候崩壊」とすら言われる事態を引き起こし、私たちを取り巻く環境が大きく変わりつつある。近代化の恩恵にあずかることのなかった地域の環境と住民にまで、悪影響を及ぼしている。温暖化の危機が警告されたのはもう30年以上も前だが、対策は進まなかった。日本を含む先進国や産油国は、今も温室効果ガスの上位の排出国であり、国連気候変動枠組条約締約国会議（C O P）の場では、新興国や途上国から事態を引き起こした歴史的な責任を追及され、補償すら求められている立場である。</p> <p>日本国民は一人当たり、世界平均を大きく上回る温室効果ガスを排出している。先進的で倫理的だなどとは、誰一人言えない。本市の温暖化対策が日本国内でトップレベルにあるのだとしても、それは国際的にはほとんど意味をなさず、自己満足の域を出ないものである。温室効果ガスの大幅な排出削減を実現できる、変化を目で感じ取り得るような、画段階的な施策を打ち出さなくては、国際的な要求には応えられないのだという認識に立っていただきたい。豊かさ、便利さ、安楽さを手放したくないばかりに、他国の人々をも破局に巻き込むような、惑星規模での無理心中をしてはならない。</p> <p>新たな温暖化対策計画の策定期間に当たり、以下陳情するものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エネルギー消費を美化しかねない古い考えに則った「日本新三大夜景」の訴求をやめ、各所での不要なライトアップはやめること。 2. 1 と同様の理由で、特に冬期における各所でのイルミネーション点灯をやめるか規制すること。夏期のミスト噴射もやめること。 			

3. 温暖化対策計画に、日本国としての国際的責任を明記すること。
4. 3と同様、温暖化対策における「他国への貢献」とは、技術の支援ではなく自国での温室効果ガスの大幅な削減であると明記すること。新温暖化対策計画では「他国への技術的支援」は欺まんではないので削除すること。
5. 公教育の現場において気候変動問題を取り上げること。特に根拠に乏しい「温暖化懐疑論」を批判すること。
6. 小倉や黒崎などを手始めに、都心部への自家用車の乗り入れを規制する施策を行うこと。モノレールや鉄道沿線に駐車スペースを確保した上で、当該区域で人々が歩いて移動しやすい「ウォーカブル」な街づくりを目指すこと。実績を重ねてその範囲を広げること。
7. クルマの電動化推進では不十分であるので「クルマ社会」そのものの現状を改めるべく、公共交通機関の拡充をはかること。
8. 市民がアイデアを出すなどして温暖化対策の担い手となれるよう、他国や他所で実践例のある「気候市民会議」を本市においても発足させること。
9. 畜肉の消費を減らすなど、環境への負荷の小さい生活習慣を紹介する機会を増やすこと。
10. 温暖化対応の「ビジネスチャンス」を見出そうとすることや「成長戦略」はあってもよいが、そればかりを強調するのではなく、不便さや快適でないことをあえて引き受けることもなくては状況が改善されない点についても、啓発すること。
11. 化石燃料や原子力に比してエネルギー密度の小さい再生可能エネルギーを積極的に活用することで、市内各所での景観の変化は避け得ないことを説明・啓発し、市民の抵抗感を緩和させること。
12. 市内の営農の現場におけるソーラーシェアリングを推進すること。導入しやすい仕組みを作ること。